

道の駅「奥永源寺溪流の里」自動運転サービス実証実験参加と試乗

日 時： 2017年11月16日(木)13:00～

場 所： 道の駅奥永源寺溪流の里

参加者： 最上公彦総務委員長、大木文雄公共対策委員

主 催： 国土交通省近畿地方整備局

経 緯： 10月下旬、大津市役所交通戦略室主幹上松一智氏から電話があり、11月中旬に、標記の場所で、試乗できるという連絡が入った。大津市長も試乗に行くとのこと。早速ネットを通じて試乗を申し込む。すぐに国土交通省近畿地方整備局から返信があり、11月16日(木)13時から試乗できることになった。当日、最上総務委員長の自家用車で現場に到着。40分ほどの自動運転車試乗を体験した。これなら比叡平でも自動運転が可能ではないかと思われるほど、すでにその技術は進歩していた。以下、当日のスナップ・ショットで解説する。



- ① 地元野菜販売の向こうに担当係員 ② 停車中の自動運転車
試乗は、13日、15日、16日、17日の8:30～16:00まで行われた。



- ③ 「内閣府、国土交通省」の文字が威圧的。正面下部：各種カメラ設置済み。
○車種：小型バス「日野リエッセ」 ○定員：20人 ○全長：699×全幅：208cm
○エンジン：ディーゼルエンジン ○排気量：4.72L

自動運転バスの機能

- 目標走行軌跡座標テーブルに基づくハンドルとアクセル、ブレーキの自動制御 ○走行位置座標は高精度 GPS (QZSS) + 磁気マーカ + 高精度 IMU による検出
○信号現示スプリット情報を利用したスムーズな交差点区間の速度制御
○障害物認識と車線変更又は自動ブレーキによる衝突回避制御



- ④ 出発。運転手は緊張ぎみ。背後から技術者が運転手に指示。ソソロと走り出す。



- ⑤ パソコンに運転中の情報が表示される。足元の箱内には情報機器が満載。



- ⑥ 関西、各市町の交通対策係長クラスの試乗者たち。



- ⑦ パソコン表示: 次の停車場「政所」。GPS(地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で知る装置。全地球測位システム)作動中。速度は9km/h。IMU(姿勢傾き観測システム)作動中。多種多様なカメラ作動中。コントロール、出発準備は赤信号。「機器は正常です」



道の駅周辺は、比叡平とそっくりな交通状況の場所。山間地。



⑧⑨ 運転手はハンドルから手を放している。一台しか通れない細い道路。GPS 作動で走行中。



⑩ 技術ガイドさん



⑪ 椅子の下:情報機器満載



⑫ バスの後部



- ⑬ 最上総務委員長、奥永源寺までの
遠距離往復運転と寒い一日ご苦労様。
- ⑭ 旧中学校校舎を再利用した道の駅

I 道の駅「奥永源寺溪流の里」自動運転による地域への効果

- (1) 集荷場から道の駅への農作物の配送。生産品や弁当の配送。
- (2) 道の駅への高齢者の送迎。道の駅のイベントへの移動。
- (3) 市役所支所への行政手続き(役場機能)等の移動。
- (4) 診療所、コミュニティー・センターの利用。

II 山中比叡平学区の自動運転による一つの未来的可能性(提案その1)

- (1) 「山中越 30 号線道路」を通る、大津京駅から京都三条駅までの区間に、往復便の京阪バスを走らせる、という構想。6:00~23:00 まで。往復 30 本ぐらい。通過点としての比叡平停留所と山中停留所は、それぞれ一カ所だけ設置。そのバスを利用するのは京都、大津、観光客等、多様な人たち。これまでのような比叡平住民だけではない。採算は十分ある。
- (2) 比叡平全体を周回する自動運転小型バスを導入する。一日 20 周回する。その自動運転バスは、勿論比叡平停留所にも停車する。小学校前にも、南自治会館前、各レストラン前、公園前、コミュニティー・センター前、等に停車する。
- (3) 自動運転小型バスは、主に比叡平住民のためのもの。ほぼ無料。
- (4) 例えば、皇子山中学校に行きたい場合は、自動運転小型バスに乗って、比叡平駐車場まで行く。そこで京阪バスに乗り換えて、大津京まで行く。
- (5) 例えば、京都駅に行きたい場合は、自動運転小型バス⇒京阪バス三条⇒京都駅。

(文責:公共交通対策委員 大木文雄)